

デジタル・アーキビスト履修科目 の学習目標です。

【必修科目】

[1] **デジタル・アーキビスト概論** デジタル・アーキビストの学習概要を理解するための科目
・学習内容、学習方法、仕事、活動、責任などの概要を解説

[2] デジタル・アーカイブ開発

① **【文化情報処理】** デジタル・アーカイブの制作・利用に必要な文化情報の処理について学習

- a. データ処理の基本構成・機能を理解し、情報の流れが説明できる。
- b. 文化情報システムの基本構成ができる。
- c. 文化情報の管理システムを理解し、その構成の概要が説明できる。(データベースの基礎含む)
- d. 文化情報システムの利用の基礎がわかる。

② **【マルチメディア】** 文化財・文化活動の映像・図形・文字・音声の記録(撮影)、文化情報システムへの入力・管理・流通・提示についての学習

- a. 古文書、文化財、文化活動の保存に最も適した記録映像・図形・文字・音声等の特性を利用ができる。
- b. 映像・音声等のデータの量子化と圧縮・記録・提示についての、各機能の利用ができる。
- c. 映像(撮影)・スキャナー・音声記録・図形処理等の入力・ファイル管理ができる。(撮影方法等含む)
- d. 各種メディアの流通・加工処理の方法、提示ができる。

③ **【デジタル・アーカイブ】** デジタル・アーカイブの構成方法と各アーカイブの構成の特徴を理解し、開発の手順・方法および流通・活用についての学習

- a. デジタル・アーカイブの構成方法について理解し、各種アーカイブの特徴が説明できる。
- b. デジタル・アーカイブの開発(作成)の手順・方法が説明でき、現物に適した開発を計画することができる。
- c. デジタル・アーカイブの作成計画・調査・記録・実施・デザイン・作成ができる。
- d. デジタル・アーカイブをバーチャル・ミュージアムとして構築することができる。

[3] 文化情報の管理・流通

① **【メディアと著作権】** デジタル・コンテンツの収集・制作や管理にあたって必要な、知的財産権、プライバシー等、デジタル・アーカイブの制作上の課題について学習

- a. 著作権等知的財産権、プライバシー等について理解し、デジタル・アーカイブの制作計画にあたって対処できる。
- b. 情報の収集にあたって、知的財産権・プライバシー等の許認可の対処ができる。
- c. 情報の管理・流通にあたって、知的財産権・プライバシー等の許認可の対処ができる。
- d. 情報を加工処理にあたって、知的財産権・プライバシー等の許認可の対処ができる。

② **【文化情報管理と流通】** データベースの機能や構築の方法、通信ネットワークの理解、デジタル・アーカイブに必要な、情報検索システム、情報管理と流通、通信ネットワークセキュリティについての学習

- a. データベースの機能と構築の方法について理解し、各デジタル・アーカイブに適するデータベースの構築ができる。
- b. 情報検索システムの基本的な機能を理解し、横断的検索を始め、デジタル・アーカイブズの利用に対応できる情報検索ができる。
- c. 情報管理と流通、セキュリティについての基本的な機能を理解し、実践活動に対処できる。
- d. デジタル・アーキビストとして、情報管理・検索の支援活動ができる。

③[文化情報システム] 情報の管理項目の設定、そこで使われるメタデータ（カテゴリー・シソーラス・索引語など）の表現・作成・入力について学習

- a. 文化財、文化活動等の具体的な事例について理解し、各分野の基準に対応したメタデータの入力ができる。
- b. 記録分類（カテゴリー）・シソーラス、の基本構成について理解し、文化資料に対し、適した用語等が選択できる。
- c. 著作権・資料情報・管理情報など、メタデータ（情報）について各分野のスタンダード（基準的）な構成を理解し、適用できる。
- d. デジタル・アーカイブに用いた説明、キーワードの選択・設定・情報利用などが、各文化分野の視点から正しく記述できる。

[4] 文化情報の利用 I デジタル・アーカイブを用いた、新しい文化創造や文化活動での利用や、制作・活動の支援

①[文化情報メディア]（プレゼンテーション） デジタル・アーカイブを用い、知的財産権、プライバシー等各種のプレゼンテーションについて学習

- a. デジタル・アーカイブ制作者（第三者）としての情報の取扱いを理解し、作制活動ができる。
- b. 文化情報メディアを各種の文化活動での資料提示の作品ができる。（オーサリングシステム等を利用して）
- c. デジタル・アーカイブを用いて新しい文化情報の創造や作品・製品としての開発の支援ができる。
- d. デジタル・アーカイブの活用にあたって、著作権・知的財産権・プライバシーなどの対処ができる。

[5] デジタル・アーキビスト実習

①[マルチメディア演習]実習 デジタル・アーカイブ化に必要な資料・文化活動でのフィルム撮影からハイビジョン、立体撮影、さらにスキャナーでの各種メディアの記録と入力処理について学習

- a. 古文書等のフィルム撮影、現像、スキャナー、デジタル化、データベース記録実習
- b. 映像（ハイビジョン、デジカメ）の撮影・記録、その他の現物、音声、文書をデジタル化し、データベースに記録実習
- c. 目的に応じてアーカイブに必要な多様な撮影・記録ができる
- d. 各種文化資料活動（演劇、舞、地域の文化活動、文化財等）の記録実習

②[情報記録検索学習]実習 データベースへの映像、図形、音声などの記録、情報管理と情報検索処理、また、情報検索したデータを用いた、デジタル・クリエータとしての学習項目の実習

- a. 文化財・活動に必要な情報の映像、音声、図形、文字、楽譜、電子音など記録実習
- b. 文化財・活動情報の入力・記録（データベース化）実習
- c. 文化情報検索の基礎操作実習と新しい情報検索システムの利用実習
- d. 情報検索とデジタル・クリエータ活動の実習

③[メタデータ利用]実習 文化情報に関するメタデータの記述、とくにカテゴリー、シソーラスなどの索引語の共通化、知的財産情報などメタデータの構成とその内容記述について情報活用支援として必要な学習項目の実習

- a. メタデータの記録構成（項目）の実習（各分野のメタデータの構成とそれをもとに各分野で必要とされる記述方法の学習）
- b. 実例に対する情報カテゴリー、キーワードなど索引語（索引語の選定作業）つけの実習
- c. 知的財産権、プライバシー、情報公開等の対処についての実習（調査、各種許認可願いの作成、権利者等との対応方法など）
- d. 登録情報の検索、抽出情報の適性についての実習

【選択科目】

【1】 文化に関する基礎 コンテンツの理解

各自が専門とする分野（文学、歴史、芸術、芸能、教育…など）のコンテンツを評価・分類できる力が必要である。（ただ、専門分野に対応するため選択とした）

①[文化論分野]・・・選択

文化に関する基礎について理解し、各専門分野のデジタル・アーカイブ文化的な位置付けができる。

②[文化専門分野]・・・選択

各文化分野のデジタル・アーカイブズの基礎として、その文化資料活動やコンテンツについて理解し、文化情報収集・管理・活用等の活動ができる。

（注）各専門とする文化分野のコンテンツの情報管理（メタデータ、特に資料等のカテゴリ分け、索引語の選定などできる各専門分野の知識・理解がある）ができる。

③[文化活動分野]・・・選択

文化資料の収集・情報化・管理とその活用を理解し、それぞれの専門分野でのデジタル・アーカイブ化とその利用ができる。

【2】 文化情報の利用Ⅱ

各専門分野によって、提示等の利用法に違いがあり、専門分野に適した利用する力が必要である。（このため選択とした）

①[デジタル・アーカイブ利用]・・・選択

デジタル・アーカイブを文化・芸術・産業・教育・生活などで利用でき、一般の人々の利用の支援ができる。
<各文化分野で設定>

②[文化創造活用]（新しい文化活動での利用）・・・選択

文化創造活動のためのデジタル・アーカイブの利用として情報検索、文化創造活動のための処理とそれにとともなう著作権等、提示システムの設置などを各文化分野で支援できる。

<各文化分野で設定>